

環境 ビジネス

2008年6月1日発行(毎月1回1日発行)通巻72号

www.kankyo-business.jp

新知事の環境対策!!

東国原

宮崎県知事



巻頭特集

VS

橋下

大阪府知事



6 2008
月号

高収益への伏線

緑化の効力

キーワードは「文化」「歴史」と「新・環境空間」

赤坂Sacacasのエコ

廃棄物処理から再資源化へ

排出企業で3R急加速

アルミナ粒子使い 木質タールを燃料化

バイオコークス技研は、アルミナ粒子を使って木質タールを燃料化する技術を開発した。乾留、ガス化の過程で発生するタール蒸気は、その生成するガスを使用する時、機械の故障や作業効率の低下を招く。新技術では、3ミリ程度の多孔質アルミナ粒子にタールの主成分の炭素を担持させる。木材乾留成分は木炭とバイオガスがそれぞれ約25%、残りの約49%が炭素。炭素を担持したアルミナ粒子を高温水蒸気で熱すると、水素と一酸化炭素を取り出すことができる。製造に必要な熱量を差し引いても、燃料成分の7割を有効活用できるといふ新技術だ。



パイロコーキングシステム（チップ処理能力：1トン／日）。